

## 結核患者用クリティカルパス見直しのための院内結核患者の現状分析

伊田絵理香<sup>1)\*</sup> 中山雅子<sup>1)</sup>

1) 国立病院機構鳥取医療センター看護部 2 病棟

### Analysis of the current conditions of tuberculosis inpatients to reconsider the critical path

Erika Ida<sup>1)\*</sup> Masako Nakayama<sup>1)</sup>

1) The 2nd Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

\*Correspondence: byoutou2@tottori-iryu.hosp.go.jp

#### 要旨

最近2年間にA病院に入院した結核患者について、その背景因子および看護度・生活の自由度の現状を分析し、看護における今後の課題につき検討した。結核患者の背景因子に関しては、近年の結核の動向として報告されている高齢化、臨床症状の非定型化、高頻度の合併症の存在を裏付ける結果であった。患者の看護度・生活の自由度については、看護度が高く生活の自由度の低い患者が多く、特に入院治療中の死亡例のほとんどは、絶えず観察を要し寝たきり状態の看護度A、生活の自由度Iの患者であった。他方、自宅退院できた患者のほとんどは室内歩行できるレベルであり、すなわち生活の自由度IIIの患者であった。抗結核剤の管理については、自己管理でDOTSが行えない患者が半数以上あり、その理由としては認知症で自己管理ができないため、あるいは摂食嚥下機能の低下により薬剤服用が不可能なためであった。今回の分析から、多様化する結核患者の病状に合わせた看護を効果的かつ円滑に行う工夫が必要であると考えられた。鳥取臨床科学 3(2), 187-195, 2010

#### Abstract

Tuberculosis patients admitted to Hospital A during the recent 2 years were analyzed to obtain perspective on their medical background and measures such as nursing needs and activity of daily living (ADL) to discuss future themes and construct an ideal critical path for the nursing of tuberculosis inpatients. The analysis of their medical backgrounds demonstrated an increased frequency of elderly patients with atypical clinical manifestations and complications. This finding has also been reported in other reports on recent tendencies in patients with tuberculosis. There were increased numbers of tuberculosis patients with higher nursing needs and lower ADL: particularly most of the inpatients with tuberculosis, who later died, needed constant careful observation and were completely bedridden, being classified as having nursing needs A and ADL I. By contrast, most patients who were later discharged to their home had the ability to walk around the ward, being classified as ADL III. Regarding self-management for medication of anti-tuberculosis drugs, more than a half of the patients were not eligible for DOTS (directly observed treatment, short course), because they were complicated by dementia or disturbance in eating and swallowing function. As a result, efficient and smooth nursing should be provided, according to the recent trends in tuberculosis patients with diversified medical conditions. Tottori J. Clin. Res. 3(2), 187-195, 2010

Key Words: 結核, クリティカルパス, DOTS (直接監視下短期化学療法), 高齢者結核, 看護度; tuberculosis, critical path, DOTS (directly observed treatment, short course), tuberculosis in the elderly, nursing

## はじめに

日本国内における結核は、この数十年間に大きく減少したものの、今なお年間約3万人の新規登録患者を有する感染症である。近年特に、結核罹患率の減少傾向が鈍ってきており、患者集団の高齢化などの患者背景因子の変化がその要因のひとつとして考えられている。

A病院はB県における結核診療3拠点病院の一つであり、B県東部・中部・西部及びC北部地域で発生した入院を要する結核患者の多くを受け入れている。18床の結核病床を有するD病棟がその役割を担い、平成17年に陰圧病床化して以来、病床稼働率5.0%、平均在院日数61.4日、平均患者数1名で運営されている。また、開床より院内DOTS (directly observed treatment, short course) に力を入れており、平成22年度からは独自に作成した結核退院前クリティカルパスを使用し、結核患者の看護について絶えず検討を重ねている。

今回われわれは、平成21年1月から22年12月までの2年間に入院した結核患者を対象に情報収集し、年齢・性別・基礎疾患・合併症など

の患者の背景因子および看護度・生活の自由度について現状を把握することで、結核退院前クリティカルパスの見直し、並びに条件を定めた複数のクリティカルパスを作成するため分析を行ったので報告する。

## 対象・方法

1. 対象: 平成21年1月から22年12月までの2年間に、A病院の細菌検査室で臨床検体(喀痰・胃液)から塗抹標本、細菌培養、PCR法のいずれかで結核菌が検出され、陰圧病床に入院した患者を対象とした。該当患者は平成21年に15例、平成22年に13例の計28例であった。

2. 方法: 上記28例について、1) 男女、年齢別分布、2) 年代別割合、3) 入院時主訴、4) 基礎疾患・合併症、5) 看護度構成比、6) 生活の自由度構成比、7) 退院先構成比、8) 看護度・生活の自由度と死亡の相関、9) 年代別入院日数構成比、10) 看護度別入院日数構成比、11) 生活の自由度別入院日数構成比、12) 抗結核薬の管理方法についての情報を集計し分析した。なお、看護度・生活の自由度について、表1に従い分類した。

表1. 看護度・生活の自由度

		看護度		
		A	B	C
生活の自由度	たえず観察を必要としに寝たまま状態	1 時間との観察を必要としに寝たままの状態	1 時間との観察を必要としに寝たままの状態	特に観察を必要としないがに寝たままの状態
	たえず観察を必要としているがべの上で体を動かせる状態	1 時間との観察とするがべの上で体をこせる患者	1 時間との観察とするがべの上で体をこせる患者	特に観察をする必要はないがべの上で体をこせる患者
	たえず観察をとするが室内歩行ができる患者	1 時間との観察とするが室内歩行が可能な患者	1 時間との観察とするが室内歩行が可能な患者	特に観察をする必要はないが室内歩行が可能な合

看護度をA, B, Cに、生活の自由度をI, II, IIIに分けて分類した。

3. 倫理的配慮: データベースには、患者の傷病名、氏名、年齢などの個人情報が含まれている。統計作成時にはそれらを閲覧したが、集計に当たっては個人が特定されないように十分配

慮し、また研究終了後には個人情報の資料は廃棄した。なお、本研究はA病院倫理委員会で審議され承認されている。